

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100122		
法人名	医療法人 進修会		
事業所名	グループホーム おおつか(北)		
所在地	大分県大分市住吉町1丁目2番16号		
自己評価作成日	平成26年11月26日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内中心部に有り、買い物や面会等交通アクセスに便利です。
 医療機関が併設され、24時間訪問看護と連携を取り急変時の対応や日々の健康管理を行っている為医療面においても安心です。
 介護福祉士資格を持った職員が半数以上を占め、専門的ケアの下お一人おひとりの思いと笑顔を大切に生活して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の残存機能を重視し、支援しすぎず、自立を促す工夫がされている。
- ・利用者の不穏の症状を生活習慣・排便習慣に結び付けて捉え、適切な援助により改善に繋がっている。
- ・ポイントを押さえた介護計画が作成され、定期的に丁寧なモニタリングが行われている。
- ・職員個々の年間目標を職員の人材育成に繋げている。
- ・職員間のコミュニケーションが取れており、利用者支援や事業所運営に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に地域の方々と交流が持てるよう、地域のイベントへの参加や日常の散歩・買い物等一人ひとりに応じた形で実践につなげている	職員は、日々の支援や地域活動の中で、「かたりかけ といかけ よりそい 地域と共に歩む」と明文化された理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設でのイベントや地域の行事・近隣の保育所との交流を定期的に行っている	地域の運動会や祭りに参加したり、事業所開設時から行われている事業所の夏祭りを、地域にチラシで案内しており、家族や地域住民ら400名の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会や老人会を招き施設の見学や紹介を通じ認知症への理解を深めていただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合った意見や助言をスタッフと共有しサービスの質の向上に努めている	複数の利用者が委員として参加している。年間の実践状況が解りやすく議事録に記載され、会議では、事業所や利用者の状況が詳細に報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より情報や指導を頂き協力関係を築いている	利用者間の困難事例を相談し、専門医の治療に繋げた事例があり、毎回の運営推進会議の案内、報告を行い、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い理解を深め、ミーティング等で話し合いながら身体拘束をしないケアを実践している	事業所は、5階建て建物の3階フロアが専有部となっており、「南」「北」それぞれのユニット間や他のフロアにも自由に行き来が出来、見守り支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で理解を深め職員同士相互に指導が行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に対して学ぶ機会は久しく設けていないが、後見人制度の利用に際し説明を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明の時間を頂き同意を頂いた上で契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には話をする機会を設け意見や要望を伝えやすいよう配慮頂いた意見は運営に反映させている	複数の利用者が委員として運営推進会議に参加している。年に1度開かれる家族会は、事業所の会議室で開かれ、年間を通した行事や利用者の日常生活のDVD鑑賞が行われ、意見交換の場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談・日々の勤務の中で意見や提案を聞き反映できるよう努めている	職員一人ひとりが、年間目標を立て、年2回の上司との面談時に、意見や気づきなどの話し合いが行われている。職員間のコミュニケーションが取れており、利用者支援、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルや必要に応じた研修に参加する機会を設け、定期的に勉強会を行い情報を職員間で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所グループホーム協議会に加入し、勉強会・研修に参加すると共に他施設の実習を受け入れ互いにサービスの向上につなげられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いを汲み取れるようコミュニケーションを十分に取って不安を解消すべく希望や要望を伺い安心して過ごして頂けるよう信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は連絡や面談に時間をかけ不安や要望を伺い信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネの情報や本人・家族との会話から状況を判断し今一番必要とされるサービスを提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の有する力や好きなことを見極め役割を持ち共に行う事で支え合いの関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や面会時に近況や様子を伝え協力して本人を支えて行けるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添えるよう定期的に馴染みの場所に行く手配を行っている	利用者の行きつけの美容師と職員がコミュニケーションを取ることで、利用者が穏やかに美容院に通い続けられている。空き家になっている自宅に帰り、穏やかな時間を過ごすなど柔軟な対応が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支え合える関係を築けるよう関係性を把握しながら家事や会話レクリエーションを一緒にいき互いが役割を持つ事で関わりを持てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙や電話で交流を持ち相談支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に要望や希望を伺い、日常の会話の中から意向を把握し本人の納得のいく形で希望に添える様検討し支援に努めている	センター方式のアセスメント様式を活用し、利用者情報の丁寧な把握が行われている。新しく把握された情報が加筆され、職員間で共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を伺い出来る限り趣味や暮らし方・大切にしていることを継続して行えるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や気づきシートを活用し有する力を発揮できるよう把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを汲み取りスタッフ間で意見を出し合い毎月のケア会議で検討し現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に、ポイントを押さえた介護計画が作成されている。サービス担当者会議や毎月開かれるケア会議は、実践的で個々の利用者の現状に即した介護計画作成に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきシートを活用し、提案・実践・経過等スタッフで意見を出し合いひとりひとりに合った実践や介護計画を見直しケアの統一を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の真のニーズに対応できるよう情報収集や提案を行い柔軟な支援が出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむ事ができるよう馴染みのスーパーや理容室へ出掛け、近隣の保育所と定期的に交流を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切に、毎月の受診時にはかかりつけ医へ心身の情報記録で報告を行い連携をとっている	希望のかかりつけ医の受診支援が行われている。受診時の情報提供表も用意され、通院時に活用されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護へ日々の体調の報告・相談を行い助言を受け適切な受診や医療処置が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い入院中は病院関係者や家族と情報交換を行いスムーズに退院が出来る様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて入居時に家族や本人と話し、意向を伺っている。看取りの体制が必要な際は再度家族に確認し家族・医師・訪問看護と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の希望に沿って、重度化、看取り支援を行っている。職員と医師、訪問看護との連携により、利用者と家族が穏やかにターミナル期を過ごせるよう支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署協力の下、定期的に救急蘇生法の研修を行い、初期対応のマニュアルを作成しすぐに閲覧出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方に協力を頂き定期的に避難訓練を行い、全職員が避難する方法を身につけている	年2回、事業所全体での防災訓練を行っている。火災対応の訓練で、出火場所を想定し、安全な場所へのフロア内の誘導を行っている。自治会長の協力が得られ、3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りや人格を尊重した対応を心がけ、敬意を払いひとりひとりに合った声かけや対応を行っている	個々の利用者の意思やこだわりを尊重し、状況に応じ、援助しすぎず、自立を促す支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築けるよう努め希望を伝えやすく自己決定の機会が増える様な声掛け・対応に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、ひとりひとりの意思を第一に考え、希望に添った生活を送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は自分で服を選び、その方々の希望や力に合わせ職員が支援し整容や化粧等本人の思いを尊重しながら行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のつぎ分けや汁作り・準備や片付け等役割を持って楽しめる様支援している	献立や調理は、主に母体厨房で作られている。利用者の咀嚼や嚥下、個性に合わせた形状や提供の工夫が行われている。クリスマス会等の行事食や、月に1度のデイサービス合同のランチバイキング等、趣向を凝らした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、食が楽しいものとなるよう好みの食物を準備し声掛けや形状・器の工夫を行いバランスよく食事をとれるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、ひとりひとりに応じた介助や口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄への思いを尊重しプライバシーに配慮しながら排泄パターンに合わせた支援を行っている	利用者の状況に沿った見守り、誘導、介助に努めている。利用者のプライドを傷つけないよう、さり気なく排便の確認を行い、トイレでの排泄を基本に自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すようひとりひとりに合わせた運動や飲食物の工夫を行い、定期的に自然な排便が出来るよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認の上ゆっくりと気持ちよく入浴出来るよう支援を行っている	週2回の入浴を基本にしているが、希望に応じて、その都度支援している。利用者の意思を尊重し、安全確認しながらの見守り入浴支援や、重介護度の利用者は、法人内の特浴の利用での入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴や安全面に配慮しひとりひとりのペースや好みの寝具で休息や睡眠がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に職員が服薬管理を行い薬の変更時は申し送りノートで情報の共有を行うと共に変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな物事や有する力を把握し役割や楽しみを持って生活出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力しながら本人の希望に添った外出を行い、職員と一緒にドライブや外食・買い物に出かける事が出来るよう努めている	買い物や外食など、個別での外出支援や集団での紅葉狩りが行われている。利用者の思いを伝え、家族の協力で墓参りに出掛けるなど希望に沿った外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭管理をしている方も居り、他の方も買い物や外食の際自分の財布から支払いをして頂けるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も居り、他の方々も希望のある時やお礼等友人や家族と電話や手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が心地よい場所となるよう環境に配慮し季節や生活感を感じる事ができるような心がけている	開放的な共有空間は明るく、適温に保たれ、過ごしやすい環境作りに努めている。共有空間での過ごし方も、利用者個々の作業や気の合う利用者同士の触れ合い、別ユニットの妻への訪問等、思い思いに過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で気の合う者同士で話や趣味を楽しんだり北・南のユニット間を自由に行き来出来る環境づくりに心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で過ごしていた様子やしつらえを伺い、本人や家族と相談しながら安全に配慮し出来るだけ使い慣れた物を継続して使用することで居心地良く過ごす事が出来るよう工夫している	利用者の馴染みの物が置かれた居室は、利用者の使い勝手の良いように備品が配置されている。コーヒー好きの利用者は居室でゆったりとコーヒータイムを過ごす等、居心地良く過ごせるよう支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	有する力を把握し、居室のそうじや洗濯物干し等安全を確保した上で出来るだけ自立した生活を送れるよう支援している		